



ENGINEER® の MPDP ダイアリー

高崎 充弘

第3回 MPDP 理論の実践：ムッシュ・マグニの場合 ②



[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP 理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

マーケティングのやり直し

前号では開発途中の新製品の販売ターゲットが一般の生活者にまで広がったというところまでお話をさせていただきました。

当初は「精密工具に装着して使用するルーペ」というオプション部品の位置づけでしたので、ルーペ単体としての差別化はそれほど必要ありませんでした。

しかし、(サイドディッシュやデザートではなく)メインディッシュとしてお客さまに提供するわけですから、「MPDP」を根本から考え直すことになりました。

まずは「M」、マーケティングです。販売ターゲットを団塊の世代（プレミアムエージ）に絞り込み、ルーペが活躍する4つのシチュエーションを抽出しました。

1. ビジネス：新幹線や飛行機の時刻表、名刺の電話番号やメールアドレス
2. ホビー：プラモデル、ビーズアクセサリー制作
3. 一般家庭：食品の賞味期限、添加物、薬ビン
4. 業務：精密作業、品質検査



基本コンセプトは変幻自在（変幻自在）

磁石が付いていること、コンパクトに折り畳めること、収納・携帯用のケースがあること、これらの特徴によって、変幻自在に活用できるルーペという基本コンセプトが出来上がりました。

さっそく3次元CADで詳細デザインを開始し、3次元プリンターでモデル試作するというプロセスを繰り返しました。収納ケースについても金属、樹脂、布など素材から形状までさまざまな検討を重ねました。



▲携帯用ケース

▲H77mm×W50mm

命名：「ムッシュ・マグニ」

さて、本体デザインが70～80%の完成度になったころ、いよいよ正式な名前をつけるタイミングとなりました。当社の場合、新製品のネーミングは社長である私の専権事項となっており、楽しみにしている仕事の一つです。

「ようやく7合目まで来たか！」と感慨ひとしおです。それまでは社内で「マグネットルーペ」と仮称で呼ばれていた開発品に正式な名前が誕生しました。それが、「Monsieur Magni（ムッシュ・マグニ）」です。

ウ：ふ～ん……。ほな、ムッシュ・マグニっていう名前は、社長はんが考えはったんでっか？

高：そう、2カ月くらいかかった。毎晩、近所の銭湯のサウナ室にこもって。サウナと冷水浴を繰り返すと頭がシャッフルされて良いアイデアが浮かぶんだ。

ウ：ところで、ムッシュはミスターと同じ意味のフランス語でっしゃろ。「マグニ」はどういう意味でっか？

高：Magnetは磁石、拡大鏡は英語でMagnifierっていうんだよ。両者の共通項が「マグニ」なんだ。

ウ：ほんなら、Magnetic Magnifierやったらアカンの？

高：ドキッ！ 良い質問だね(^_^;)。ルーペをよく使う職業の人がいるでしょ、推理小説に出てくる……。

ウ：あっ、分かった、探偵はん？

高：大正解っ！ アガサ・クリスティーの小説で有名なエルキュール・ポワロはベルギー出身の名探偵で、いつもルーペを持ってるでしょ？

ウ：そうか、それでフランス語のムッシュと組み合わせたんでっか～。名探偵ムッシュ・マグニの登場やね！

高：でも、それだけではなかなか商品イメージが湧かないので、サブキャッチも考えた。

ウ：それが前回ツッコミを入れた「変幻磁在ルーペ」でんな。磁石が付いてて変形できる面白そうなルーペっちゃんイメージがよう出てますやん。

高：ネーミングが完成してホッとひと息つきたいところだが、忘れちゃいけない重要なプロセスが2つ残っているんだ。何だか分かるかい？

ウ：一つは、社長はんがいつも言うてはるMPDPの2番目の「P (Patent)」やから、商標登録のことでっしゃろ……。さて、もう一つは何でっか？

高：「ネジザウルスGT」を米国向けに販売するときにVamPLIERS (ヴァンプライアーズ) と名前を変えたのは知ってるよね？

ウ：恐竜から吸血鬼に変身！ って有名な話ですよん。

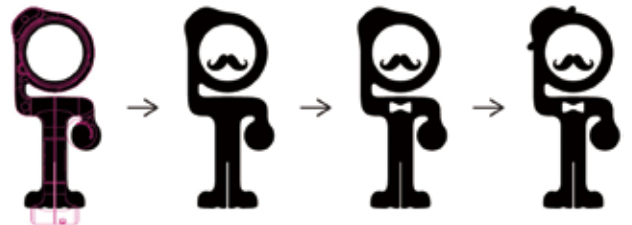
高：日本で考えたネーミングが海外でどういう印象を与えるか事前に調べておくことが大切だ。変な意味になったら困るからね。そこでドイツとフランスの知人にMonsieur Magniの語感を確かめたんだ。結果は上々だったので、すぐに商標出願を行った。

ウ：海外も視野に入れたMPDP っちゃんことよ。

高：こうしてみると、ネーミングはMPDPのすべてに深く関係する大切なプロセスだと分かるでしょ？

ウ：なるほどね～。ところで、例のヒゲのオッチャンのアイコンはいつごろできたんでっか？

高：商品開発の最終プロセスだね。よく見ると帽子を手を持ったオジサンに似ていることに気づいて、図形商標もその後すぐに出願したんだ。



よ～く見ると だんだん、ヒゲのオッチャンに見えてくる！

ウ：ええっ～？ オッチャンに見えるから名前をムッシュにしたんとちゃうんでっか？

高：ドキドキッ！ (^_^;) これまた鋭い質問だね。そう、ムッシュ・マグニの名前はオジサンができるずっと前にサウナでひらめいたんだよ！

ウ：えっ、どうやって？ 社長はん、何でなん？

高：う～ん、これは秘密にしておきたかったんだけどな。よし、ヒントをあげよう。ムッシュ・マグニを10回唱えてごらん。

ウ：何？ 10回いいまんの？ ムッシュ・マグニ、ムッシュ・マグニ、Monsieur Magni、Monsieur Magni、Monsieur Magni…… (次号に続く)。